



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

No.34

2014. 1. 15

【発行】

奈良県肢体不自由児・者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp>

【発行責任者】 松本倫子

【編集責任者】 菰口悦子

【メールアドレス】

honbu@narakenshiren.gr.jp

午年の今年、すべてがウマくいきますように

会長 松本倫子

新年明けましておめでとうござい
ます。皆様おそろいで佳いお年
をお迎えになったこと存じます。
旧年中は大変お世話になりました、
ありがとうございます。今年も
よろしく願い申しあげます。

今年が午年(うま年)。風を切
って一目散に駆け走るウマの姿は
美しく、私はあこがれます。乗り
手を信じているウマは、後ろを振
り向かないで、前のみを見て懸命
に走っています。気持ちよく走る
ときはウマと乗り手の相性がびつ
たり合う「ウマが合う」状態なの
でしょう。子も親も、すべての人
と「ウマが合う」というわけには
いきませんが、「ウマには乗ってみ
よ、人には添うてみよ」という諺が
あるように、物事はまず体験して
から考え、判断してみたら、人間
関係は、すこしはウマく行くので
はないでしょうか。

昔は、ウマは旅をするにも、も
のを運ぶにも、田畑を耕すにも大
役を果たしていました。人間にと
って至極大切な動物なのに、諺で
はあまりいい意味に使われていま

せん。「ウマの耳に念仏」(言い聞
かせてもその価値をわかってくれ
ない)「馬耳東風」(聞き流す)、
これらは親たちが我が子にいつも
感じています。県肢連の役員は、
何事にも真正面から取り組んで、
「馬車ウマ」のごとく突っ走って
来ましたが、今年、理事さん達
にもウマく動いてもらって、共に
考えていただく楽しい会になって
ほしいです。会長の私は、「馬齢」
を重ねて古稀を迎えました。もう
少し、皆さんと障害のある人たち
の幸せを求めて歩ませていただき
たいと思います。

昨年は大きな事業、六月に第十
二回チャリティー墨書展、九月に
近畿肢体不自由児者福祉大会、十
二月に東京奈良まほろば館でのチ
ャリティー墨書展特別展を、多く
の皆様のご協力を得て大成功裡に
終えることが出来ました。東大寺
と南都諸大寺、奈良県障害福祉課
と東京事務所はじめ多くの方々
に、大変お世話になりました。心
からお礼申し上げます。

これらの事業は、重い障害のあ
る人たちに対する理解を深めてい
ただく良い機会になりました。ま
た会員にとっては、互いの絆が深
まりました。そして何よりもたく
さんの方々の優しさに触れること
ができました。事業、活動に参加
された方から感想文を、今号の
「道」に載せています。参加され
た皆さんは新しい知識や情報を吸
収されて、これから親子で生きて
いく道しるべを得られたようです。

近畿大会や地域指導者育成セミ
ナーをとおして、父母の会のこれ
からの課題は見えてきました。会
としての課題に向かって歩むにも
まずは親子が、親が介護できなく
なったとき、どのような暮らしを
望まれるのかを知らせてほしいで
す。親子の将来を考えると、大
会や研修会、会の情報は役に立ち
ます。積極的に参加いただいで、
参考になる情報を得ていただきた
いと思います。すべてがウマくい
きますように、皆さんと力を合わ
せて、この一年歩みたいと思いま
すので、よろしくお願いいたしま
す。



一歩ずつ、着実に

大和郡山市

市長 上田 清

新年おめでとうございます。午年を迎えました。

その午、つまり馬にまつわる警句のひとつに「荒馬の轡(くつわ)は前から」があります。

轡というのは、馬の口にくわえさせ、手(た)綱(づな)をつないで馬を御する馬具のことで、気性の荒い馬ほど正面から向き合いなさいという教訓から、困難な問題に真正面から取り組むことの大切さを説いたものでしょう。

肢体不自由児・者をめぐるさまざまな課題についても、県肢連をはじめ、これまで多くの方々がそれぞれこそ真正面から取り組んでいただいたからこそ、道が開かれてきたのではないかと、あらためて感じるとともに、心から敬意を表する次第です。

大和郡山市では平成十九年二月に地域自立支援協議会を立ち上げ、関係機関や当事者家族会、民生委員、福祉サービスマニヤなどのご協力を得て、具体的な取り組みを

開始しました。

その際、メンバーがそれぞれの立場を一歩ずつ越えることでお互いの距離は二歩縮まる、知恵を出し合いますよと呼びかけたことが、なぜか昨日のことのようです。

そうしたなか「既存の制度だけでは充足できない問題」や「制度の狭間にある問題」など地域社会の具体的な課題の解決をめざし、本市独自の事業としてスタートしたのが、「入院中ヘルパー派遣事業」「緊急時ステイ事業」「レスパイトサービスマニヤ」の三事業でした。

協議会は平成二十三年度から「暮らし部会」「教育部会」「就労部会」の三部会に再編成し、地域生活から生じる課題などについて、課題を共有しながら解決に向けて活発な議論や、地域システムづくりを進めていただいています。

さて平成二十六年度は、新たに施行された「障害者総合支援法」に基づき、第四次障害者福祉計画の策定に取り組むことになりましたが、現在、着実に障害者福祉サービスマニヤに浸透、普及し、放課後デイサービスマニヤや生活介護などの利用者が増加していることを踏まえ、今後の方向性や課題をしっかりと議論していきたいと考えています。

第十二回

チャリティー墨書展



本部役員 宮井 陽子

二年に一度のチャリティー墨書展が昨年六月二十九日・三十日の二日間、奈良県文化会館において開催されました。東大寺、興福寺、西大寺、唐招提寺、薬師寺、法隆寺、大安寺の南都七大寺のご高僧の皆様、中宮寺ご門跡様、法華寺ご住職様にご揮毫いただいた書二百四十四点が一堂に展示されました。また今回は東大寺福祉事業団理事長の狭川普文様が陶器も出展してくださり、これまでとは少し違った会場の風景でした。準備の整ったB展示室は墨のいい匂いが拡がりました。

初日は朝早くから大勢の方が並んでくださり、午前十時始まりと同時に会場内は来場者でいっぱいになり、受付、販売、接待、会計、それぞれの担当者の動きがあわただしくなりました。奥の会計のところまで行かれるのかと思うくらい勢いで走って入られる方もおられました。これまでに来場され御記帳いただいた皆様には毎回ご案内をさせていただき、今回は千

二百名の方々に送らせていただきました。二年に一度のこの日を楽しみにしてください。前日のテレビ放送を見られた方、また当日のお昼のニュースを見て、行き先を京都からUターンして奈良に戻ってきまじると言ってご来場くださった方もおられました。接待係がお出しするお茶は、毎回ベテランの会員さんが入れていますが、お客様から「おいしいお茶ですね」と言っていたら、担当者皆が嬉しく笑みがこぼれます。今回は一日中来場者の足が途切れることなく、会場内には常にお客様がいらしたように思います。多くの方が足を運んでくださり、来場者は二日間で約八百名でした。年明けから動き始めた大きな事業ですが、多くの方々にお力添えいただき無事に終えることが出来ました。支えてくださった皆様にご心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



第四十八回

近畿肢体不自由児者福祉大会

◆平成二十五年九月七日(土)

◆奈良県文化会館 小ホール

◆三百五十名



大会テーマ

「肢体不自由のある人たちのよりよい暮らしを求めて」

障害のある子を持つ親にとつて一番の願いは、生活の拠点が在宅であれ、施設であれ、一人ひとり自分らしくいきいきと暮らせることです。会員の子どもの達の障害は重度化・多様化し、ニーズも様々です。本大会では、地域生活、入所施設、医療を伴う人たちの暮らしの三分野に分かれて、よりよい暮らしを求めて情報交換をしました。その中で、親たちがどのように動けばよいのか、支援者をどのように求め接したらよいのか、どのように福祉サービスを組み立てたらよいのか、どんなサービスが足らなくて困っているのか、今後に向けてどのように行政に求めて

動けばよいのか等、具体的な話し合いをして、得られた情報を日々の地域父母の会活動に活かされることを願って本大会を開催しました。

中央情勢報告

「障害児者福祉施策について」

全国肢体不自由児者父母の会連合会

会長 清水 誠一

- ・ 障害福祉施策の歴史
- ・ 障害者自立支援法のポイント
- ・ 障害者自立支援法の施行に係る特別対策
- ・ 障害者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律の概要
- ・ 利用者負担の軽減措置について
- ・ 指定相談支援事業所と相談支援専門員
- ・ 地域社会における共生の実現に向けて新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律の概要

分科会1

テーマ「地域生活でのよりよい暮らしを求めて」

くケアホーム・共同住居での実施事例をとおして具体的な動きを学ぶ

講演

特定非営利活動法人わーかーびー

理事長 松坂 優

- ・ 肢体不自由者の住まいの現状
- ・ 暮らしの形態いろいろ
- ・ 各地での住まいの取り組みの紹介

- ・ があだぼーと(北海道室蘭市)
- ・ Kハウス(札幌市)つくしんぼ(宮崎県延岡市)すまいるはーと(鳥取県米子市)増尾台ウィズホーム(千葉県柏市)
- ・ 人の数だけ住まいのあり方も様々、一人ひとりがオリジナルな生活を
- ・ 地域で暮らすときに知りたいこと
- ・ と 住まいの現状、今後の制度改正の動向など

奈良の試みの報告

特定非営利活動法人虹の家

施設長 吉村 文男

虹の家設立から平成二十六年四月ケアホーム開所までの経緯

分科会2

テーマ「入所施設での生活の質を高めるために」

アドバイザー 滋賀県障害児協会

理事長 乗光 秀明

社会福祉法人中川会

理事長 安井 清悟

障害者支援施設菅原園

施設長 宮本 洋輔

課題提起

1. 障害者本人が身につけておくこと
2. 親の接し方、心構え・・・対施設、職員、本人
3. 施設職員が気持ちよく働いてくれる職場であるために
4. 日中生活の充実(移動支援・日中他施設利用等)
5. 加齢に伴う体の拘縮、変形、重度化
6. 病気になったとき
7. 指導員に望むこと
8. 報酬単価 土日入所支援 重度加算



分科会3

テーマ「医療を伴う人たちの親子の暮らしを支えるために」

アドバイザー

滋賀県障害児者と父母の会連合会

会長 植松 潤治

重症心身障害児学園・病院 バルツァ・

ゴードル 園長 大島 圭介

あまい医院 院長 天井 浩

一般社団法人奈良県訪問看護ステーション協議会 監事 川田 公子

東大寺福祉療育病院 地域支援

奥西 緑

奈良県の現状と課題

1. 福祉について

・ 医療的ケアの重症度と専門性

・ 親の協力

・ 日中活動とショートステイ

・ 相談支援事業について

2. 医療について

・ 緊急時対応

・ 診療科の変更

・ かかりつけの開業医をもつた

めには

・ 訪問看護ステーションの役割



大会決議文

今回の第48回近畿福祉大会奈良大会には、近畿2府4県から350名の参加者が集った。清水誠一全肢連会長から障害福祉施策等について中央情勢報告を受けた。午後は参加者全員が、「肢体不自由のある人たちのよりよい暮らしを求めて」をテーマに、地域生活・入所施設・医療を伴う人たちの3分科会に分かれて、情報交換、意見交換をした。それぞれの分野で課題が見え、父母の会が今後の活動の指針とすべきことが明らかになった。以下を今大会の決議とする。

1. 平成23年「障害者基本法」が改正され、本年4月「障害者総合支援法」が施行された。また本年6月には「障害者差別解消法」が国会を通過した。今後の「障害者権利条約」の批准及び3年後の「障害者総合支援法」の見直しに向け、私たちは動きをしっかりと注視し、意見具申しましょう。
1. 分科会1では、地域での住まい方、特にケアホーム・共同住居について、新しい情報を得た。障害者福祉制度・支援者等に関して私たちが出来る具体的な動きを学んだ。制度上の制約や親子各々の「自立」についての課題も出てきた。それらを日頃の父母の会活動に活かして、よりよい暮らしの実現に向かって歩みましょう。
1. 分科会2では、あらためて質の高い生活を保障できる入所施設の必要性を再確認した。利用者・保護者と施設側には、相互理解と深い信頼関係がなくてはならない。利用者の日中生活、社会参加、加齢と共に生じる体調変化に対して対策を講じてもらえるように声を出しましょう。
1. 分科会3では、医療を伴う人たちが安心して地域で生活するためには医療・福祉・教育のトータルな支援が必要であり、それらをつなぐネットワークの構築及び核となる相談支援の必要性、またあらゆる場面で本人や家族を支えてくれる人材の重要性を再確認した。その中で出てきた課題については、関係機関に声を届け、生活のしづらさの解消に努めましょう。
1. いずれの場面においても、人材の質・量の不足が解消されず、障害児者の生きづらさに繋がっている。人材不足の解消及び職員の処遇改善を求めて各方面に働きかけましょう。

平成25年9月7日

第48回近畿肢体不自由児者福祉大会

参加者の感想



分科会1に参加して

磯城郡 天井 純

今回、第一分科会では、僕たちの日常生活にかかわっていく話で、自分にとっても、いろいろなことを考えさせられる時間となりました。

話をきいて、知的の人のグループホームはたくさんあるのに肢体不自由な人たちは介護が大変など人手がいることがすぐわかり、そのグループホームの、現状報告をきいて自分の生活を見直してききたいと思いました。どんな生活かを見に行ったり、将来のためにあらゆるサービスを考えていくことが大切だとわかった分科会でありました。

桜井市 樋上 千香

息子は現在二十四歳、気がつけば養護学校を卒業して五年が過ぎています。

日中は通所の事業所に通いながら、身体介護や入浴・移動サービスなどを利用して在宅での生活を送っています。

これからも生まれ育った地域で、家族や仲間と共に社会の一員として暮らして行けたらという思いはありますが、市内の福祉サービスはショートステイなども含めてまだまだ充実しているとは言えず、いずれは親が介護出来なくなる時が来るといふ課題は避けては通れない問題です。

第一分科会では、その時に入所施設を選択するのではなく、地域でのケアホームや共同住居を生活の場とし暮らしておられる事例についての報告をお聞きしました。重度の障害があっても地域での暮らしを望むのであれば、その人に応じたいろいろな暮らしのスタイルがあっても良いのだと思いました。

今回参加した事により、息子にはどのような将来を選択してあげれば良いのか、またその為にはこれから私たち父母がどのように取り組み、協力してくれる支援者などを確保して、福祉サービスをいかに利用していけば実現出来るのかを学んでいかなければと考える良い機会になりました。

分科会2に参加して

奈良市 近久 逸美

九月七日(土)奈良県文化会館にて、「より良い暮らしを求めて」をテーマに、出席させて頂きました。

私の娘は、養護学校高等部卒業と同時に入所しました。それは、当時、卒業後の進路で友達何名かと決定して自分から入所して自立するという意識が芽生えていたようです。このタイミングと、入所開設と何かの縁のような気がいたしました。あれから九年たち、今では在宅も随分多くの支援があり充実しているようで、この点においては、入所生活でも日中活動がどんどん充実してほしいと希望しています。入所しても、奈良市では移動支援が使えますが、地域に格差があるように、近畿地区でも滋賀県には一歩リードされているように感じました。子供達にとつて、親亡きあとには、安心して入所できる場所が必要です。

奈良市 津川 登志子

長男、貴行が菅原園にお世話になって、早くも十七年が経とうと

しています。もうすっかり施設におんぶにだっこ状態でありますがたくさん思っています。参加されたご家族の意見がいくつか出されましたが解決できない思いが多いものだと感じました。法律や規則など制約が多いなかで、滋賀県の乗光秀明理事長の施設の運営のありかたに感動しました。入所者の方々がより良い生活を送れるように、また介護に従事する職員が働く環境をよくするにはどうすればよいかとさまざまな努力をされているのが心にひびきました。

ひとつ、大変にシロクだったのは、安井理事長の職員のレベルが低いという言葉でした。私も高齢者の方の介護に携わっているものとして、とても悲しい思いでした。職員の方は一生懸命働いておられると思います。低い給料と重労働でじぶんの体をこわしながらも最善の努力をしているはずですが、働きやすい良い環境の職場にできるのは理事長のお力ではないでしょうか。入所者のかたが安心して快適に暮らせるように努力をしていただきたいのはもちろんですが、職員にも温かい思いでみまもっていただきたいと思います。

大和郡山市 出雲 晋治

誠に申し訳ありませんが、自分が、ながわ、の安井理事長さんに、おたずねした事しか覚えていません。他の事柄については全く記憶に残っていません。以下がおたずねしたことです。

「親が元気な間は、施設外へ連れ出し、親子一緒に楽しむことが出来ず。しかし、親が亡きあととは、ひとりで施設外へ出て、楽しむことは出来ません。そこで施設として、入所者が施設外へ出て楽しむ機会をつくって下さい。」

お返事として、「以前おっしゃるような計画をたてて、希望者をつりましたが、料金が発生するため、希望者がほとんどいなかった。だから、今はそのような計画をたてて実行はしていません。」

私もそのようなことは覚えていません。安井理事長さんのおっしゃるとおりでした。

自分に関係した事の記憶は残りやすいですが、全て関係がないと思ったら記録されません。だから、保持がなく、再生不可能です。(この記憶の件は、認知症のことで勉強したことです。)

分科会3に参加して

葛城市 國澤 泰子

どのような支援があれば在宅で安心して暮らすことができるのか、をテーマとして、医師、重心施設、訪問看護師、相談支援センターの方達を交えて近畿二府四県の会員が一堂に会し、情報交換や意見交換をしました。課題をもとに会員さん達が、今の現状や困っていることなど発表され時々笑いもあり、先生方の意見に全員が耳を傾けていました。

私が一番思ったことは、診療科の変更のところですか。今まで二二年間診てもらっている病院は、他に変わって下さいとは言わないのですが、家から遠いこともあり、少し近い病院はないかと考えていたところですか。かかりつけ医をもつことの話を書いて、あっそうか、内科やメデイカルシヨートステイをしている近くの病院があると気づき、一度相談してみようかと思えます。発作や糖尿病があるので、今すぐにはいきませんが、時間をかけ、子供と共に変わっていったらと思っています。



第四十六回
全国大会の報告



本部役員 和田 恵利子

平成二十五年十月二十六・二十七日沖繩にて第四十六回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会が開催され、奈良県から十二名が参加いたしました。

大会は、開会式典に先立って「ゆいゆいキッズシアター」によるパフォーマンスが披露された後、「ゆいまーる精神は福祉の原点」(障害者総合支援法施行後の必須財源とマンパワーの確保について)をメインテーマに北海道から沖繩まで全国から七百名を超える方が集まりました。

式典後、特別支援学校における医療的ケアなどについて、地域間格差など現状を、かでかるさとし&大川豊治氏の寸劇で沖繩の方言や風俗を交え井戸端会議風に判りやすく、楽しく提議されました。

これらの課題や疑問点については、基調講演として厚労省や文科省からデータを示し丁寧な説明が行われました。

その後、「助け合うってどういうこと」と題して伊是名夏子さんに

よる記念講演が行われました。彼女は骨形成不全症の障害があり、車椅子を使い、大学、大学院と進み海外にも留学し、現在は結婚されて子育てしている女性です。そのアクティブな彼女の体験から、一方的な「助ける」ではなく「助け合う」ことについて実際に助け合うことにチャレンジする体験のペアワークを行いました。

相手の話を聴き、人とつながる大切さを知り、助け合いの輪を一緒に広めよう「助け合いの輪を一緒に広めていこう」という力強い言葉と生き様に感動しました。

翌二十七日は、「ニーズに応えるフットワーク・チームワーク・ネットワークの最大活用の術について」と題し、コーデネイターに沖繩大学・島村聡准教授を迎え、シンポジストの名護療育園施設長の皆さんからそれぞれの活動の状況や課題が提議、新しい取り組みなども述べられ、またフロアーからも意見発表や質問も行われ活発な討議の場となりました。

シンポジウムのまとめとして大会に向けて沖繩県内の当事者が集った座談会での意見を取りまとめ「当事者が望む暮らしとは」が発表され、当事者が主体となって新たに旗を揚げ、自らが旗を振っ

ていくという決意が述べられ、会場は拍手にこたえられました。

閉会式では、大会決議が提案され、「住み慣れた地域で普通に暮らしていきける社会の実現」に向けて今後も引き続き努力していくことを確認し、採択されました。

二日間にわたる大会は、全肢連大野博澄副会長による終了宣言により幕を閉じました。

沖縄での全国大会は三度目の開催との事、両日共内容も充実してすばらしい大会に参加でき沖縄のゆいまる（助け合う）心の大切さを改めて感じた大会でした。

全国大会に参加して

北葛城郡 桑原 恒子

十月二十六・二十七日に沖縄で父母の会の全国大会があり参加させていただきました。

『ゆいまるの精神は福祉の原点』をテーマに、寸劇・基調講演・記念講演がありました。

、ゆいまるとは沖縄の言葉で、結び付きや助け合いという意味があるそうです。

寸劇では特別支援学校での医療的ケアについて、その現状・地域

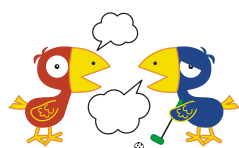
間格差や各サービスの支給量についてなどが分かりやすく定義され、厚労省や文科省から説明されていました。

続いて、「助けあうってどういうこと？」をテーマに沖縄県出身の伊是名夏子さんの記念講演がありました。伊是名さんは骨形成不全という骨の折れやすい障害がありますが、養護学校や普通学校、大学で学び留学もされる等とてもアクティブな方でした。

留学先でのバリアフリーの体験談などは、たくさんの方の前で堂々と話をして皆の心を引き付けながら話をすすめていく姿に圧倒されました。又お話を聞くだけではなく二人一組になり、お互いに自己紹介などをするというペアワークを、話の合間で何回か実践しました。ペアワークは時間を決め（数十秒ほど）、互いに同じテーマで話し、相手がしゃべっているときは何も話さない（ただ話を聞く）、一方的ではなく話し合うことが助け合うということの原点ではないかと感じました。伊是名さんは助け合うということを実践されている方でした。

二日目のシンポジウムでは、『ニーズにこたえるためのフットワークなどの活用術』について話されていました。その中に地域を素敵

な資源にするためにどうすればいいのかと活動している沖縄の本人会の方がいました。奈良と沖縄では地域それぞれで違うこともたくさんありますが、当事者自身の悩みや課題は一緒で本人同士が色々話しあい、直接自分のことではなくても考えていくことの大切さを感じました。しかしいざ自分のこととなると自立についての話題がでるとつい逃げ腰でのごさきでした。今回の大会を通して一歩前に進まなくてはと思えました。終わってからも観光にも連れて行っていただきました。首里城や美ら海水族館・国際通りへも行きました。その時のタクシーの運転手さんの話によれば、テレビのニュースでは基地の事が大きな問題となつていますが、主な企業などが少なく働く場が少ないという事が最も大きな課題だと話されています。今回沖縄では、行く所々で障害者にやさしい心遣いをする温かい人柄を感じました。



磯城郡 高木 千智

私は今回、父母の会の全国大会に初めて参加させて頂きました。毎年役員もしくは会員のお母さんが行かれるものだと思つていましたので、自分で友達を誘って参加を希望したものの「ほんとに行つてもいいのかな」と当日まではそのことを少し気にしていました。でも、行つてみるといろんなことを勉強できて、本当に参加してよかったと思つています。一日目は、はじめに

① 特別支援学校における医療的ケアについて

② 生活介護等の支給量について

③ 地域間格差はなぜ生じるの？

この三つをテーマに寸劇や、講演がありました。少し理解するのが難しいところもありましたが、この県や地域でも今後考えていかなければならない課題としては同じだなあと感じました。

次に骨形成不全症の障害をもつた女性の方の記念講演がありました。「助け合うってどういうこと？」テーマを見てどんな話が聞けるのか楽しみでした。ただ話を聞くだけではなく、助け合うためにお互いの話を聞き合うということ、私達にも助け合うことの実践をさせてくださいました。ペアワーク

という二人一組で交互に聞く人と話す人になって、三十秒間話をするとという方法を教えてくださいました。私は母とペアになり、最近あったうれしかったことなどの話をしましたが、改めて話をしようとするとう言う方がいいのか、案外でてこないものだなあと思いました。ご自身が経験してこられたことや、今実践されていることをとてもわかりやすくお話してくださいました。「相手に自分のことを伝え、助けを求め、助けられ上手、甘え上手になりましょう」と言われたことが一番印象に残っています。自分の今後のことを考える時に参考にできることがたくさんあった貴重な講演でした。

二日目は「ニーズに応えるためのフットワーク・チームワーク・ネットワークの最大活用の術について」と題してシンポジウムがありました。地域でのよりよい生活についてさまざまな意見が交わされました。シンポジストの中に地元沖縄県の父母の会本人会の代表の方がおられ、当事者の立場から自分の感じていることを自信をもって堂々と話されていました。話の中で印象に残ったのは、「例えば自分達でどこかへ行く場合、行きやすい場所などの情報を得るためにはどうすればよいのか、自分達で考え自分達で予約をするなどの経験を増やす、そして自分で選り決める力を身につける必要がある」と言われたことです。また本人会の活動を紹介された時に「障害があることで困っていることなど、暮らしの中で感じる困ったことや当事者にとつて必要な情報を交換しています」と言われました。私達の本人部会とよく似た部分があつて、共感できることや、参考にしてもらえらることも多く、本当に良いお話を聞けてよかつたです。私達はまだまだ甘えている部分が多いなあと思いました。

この大会を通して自分の思いややってほしいことは、自分の言葉でちゃんと伝えることが大切であると改めて強く感じました。最後に沖縄に行つて感じたことを書きたいと思います。観光も含めて三日間、移動はすべてタクシーでしたが、対応の良さに驚きました。運転手さんが「沖縄の移動は、タクシーかレンタカーがあたりまえ」と言われただけのことあつて、本当にやさしく良くして頂いて、安心して乗せて頂くことができました。これは私個人のことですが、関西ではタクシーを利用したくても車椅子というだけで変な顔をされたり、あまり良い経験をしていないので、大きなちがいを感じました。

地域指導者育成セミナー



一緒に参加してくださった役員のお母さん方とこんな機会にもつと自分からお話させてもらえばよかつたという反省点もあるのですが、私自身沖縄がとても好きで、ずっと前から行きたいと思つてきたことも実現できたし、そして貴重な経験もさせて頂けて、思い出に残る三日間でした。本当にありがとうございました。

◆平成二十五年十二月七日(土)

〃八日(日)

◆京都市洛西ふれあいの里

保養研修センター

テーマ「障がい者の住まいの在り方」〓 肢体不自由者の住まいのあれこれ〓

本部役員 山口 裕美

一日目はNPO法人わーかーびー理事長松坂優氏による講演があり、その後次の四つのテーマに分かれ討議が行われました。

- ① 自立生活と住まいに対する考え・課題
 - ② 自立生活の実践
 - ③ 当事者・家族の意識
 - ④ 地域(地元)での事例
- 二日目はグループ討議の報告と基調報告がありました。
- まとめとして滋賀県障害児者と父母の会連合会会長の植松潤治氏が、

「どんな状況にあつても暮らしに依る支援が必要で、それは個々にと、選択肢を増やしていくことも必要です。

グループホーム・入所施設・共同住居等住まいの形態にかかわらず本人主義の視点で考えると、どこにいても同じだけの費用がかかるはずで、この子にどれだけのお金がかかるのか試算してみよう。新たな住まいを立ち上げようとするなら、親も知恵・お金を出すことを覚悟し、責任を持つことです。先頭を切つてやるということはそういうことです。」

と結びました。



桜井市 小野 弘美

平成二十五年度近畿ブロック地域指導者育成セミナーが十二月七日・八日に京都市洛西ふれあいの里保養研修センターで開催されました。

一日目は、「障害者の住まいの在り方」をテーマに、NPO法人わーかーびー理事長松坂氏に講演をして頂いた後、六グループに分かれグループ討議が行われました。

私は、「本人・家族の住まいに対する意識」をテーマとするグループでの討議に参加しました。討議は、進行役である「ファシリテーター」を中心として進められました。

討議の内容が、哲学的で少し難しく感じたのですが、ファシリテーター役の滋賀県連会長の植松先生が、桜井で立ち上げたNPO法人を取り上げ、上手に討議の進行を進めて下さいました。私のグループの中には、施設を運営されている、和歌山県連の岩橋会長も入って下さっていたので、施設側の意見も伺うことができた活発なグループ討議が行われました。

二日目は、株式会社NEO代表取締役・岡本敏夫氏による基調報告がありました。

岡本氏は様々な住居のリノベ

ション、空室の再利用等をされている立場から、障害者が地域で住むことの現状を講演して下さいました。

その後、質疑応答が行われ、地域移行にばかり目を向けているが入所施設はなぜダメなのか、国も地域移行を進めるのであれば、そのための予算を確保しなければならぬのではないのか・等々、様々な立場の方から力強い意見を伺うことができた本場に勉強になりました。ありがとうございました。

桜井では二年前、お母さん達とNPOを立ち上げました。

私自身ふと振り返ってみると、その中心にはいつも障害を持つ我が子「満美」がいて、大げさかも知れませんがこの子が私の人生を導いてくれているんだと感じました。

植松先生もおっしゃっていましたが、「我が子が道標」本当にその通りだと思えます。これからも、迷い、つまずきながら歩んで行くんだらうと思いますが、命の大切さ、生きることの意味を教えられたこの子達の大切な命を守り支えるため、お母さん・スタッフと共に一歩ずつ歩んでいこうと、今回セミナーに参加させて頂き強心に刻みました。

本人部会
日帰りバスツアー
全肢連さわやか
レクリエーション事業



◆平成二十五年十一月九日(土)

◆琵琶湖ミシガンクルーズ・

ガーデンミュージアム比叡

◆二十四名



生駒郡 植田 小百合

今回の琵琶湖日帰りバスツアーは良いお天気で良かったです。

ミシガンに乗ったのは二回目で行ったことがあり、その時も確かに良いお天気だったのでミシガンに乗りました。でも今回はランチクルーズも出来たのでとても良かったです。お料理は琵琶湖マスを使った料理と地鶏を使った料理を食べました。とても美味しかったです。

食事の後は船の中でパフオーマンズなど見ました。パフオーマンズをして下さってるお兄さんはかっこ良かったです。

それから船を降りて花など見てお土産を買ってバスに乗って帰りました。その後久しぶりに桑原さんと王寺まで一緒に帰り夕食をして帰りました。

去年は頸椎の手術をして一人で行くことが困難で何処かへ行く時は母と一緒にしました。また友だちと遊びに行けるようになり、今年の分これからまた遊びに行こうと思っています。

奈良市 吉岡 亮一

今回行ったミシガンは琵琶湖を周遊するもので、最上階スカイデッキから眺める三百六十度のパノラマの昼間のびわ湖と食事、ショーを楽しむ九十分コースでした。琵琶湖は湖岸から眺めるのもいいですが、クルージングはまたひと味違います。ゆったりしながら、琵琶湖の景色を眺めるのもいいものですし、短いショータイムの催しが気持ちいいですよ。琵琶湖を悠々と行くミシガンは眞緑すら感じさせてくれました。最上階のデッキからの三百六十度のパノラマは絶景だそうです。今回は景色を見る余裕がなかったので、次回に乗る時にはぜひと思っています。

今後の行事予定

☆平成25年度親子県外交流事業
宝塚歌劇観劇
日にち:平成26年2月28日(金)
場 所:宝塚大劇場

☆第45回 奈良県肢連総会
日にち:平成26年6月5日(木)
場 所:県社会福祉総合センター
5階研修室B・C



次に行った、ガーデンミュージアム比叡は、様々な花や植物が植えられており、そこでのんびりとできます。比叡山の頂上にあり、季節の花やハーブが咲き誇る庭園では印象派の絵画にでてくる自然の風景が再現されています。庭園には陶板で再現されたモネ、ルノワール、ゴッホなど園内のあちこちに飾ってあり、風景とともに楽しめるそうです。また、クラフト教室が行われる体験工房もあり、押し花マグネット・キーホルダーやアロマせっけん作りなども楽しめたそうで、機会があったら行ってみたいかったです。

クリスマス会

〜アキラサンライズさんの演奏とジャグリング、ハンドアーチェリーを楽しむ〜
社会見学事業
共同募金助成事業



- ◆平成二十五年十二月十四日(土)
- ◆奈良ロイヤルホテル
- ◆一〇四名



生駒市 下村 薫

初めて参加させて頂いたクリスマス会。中々タイミングが合わずずーっと行きたいと思っていたホテルでのクリスマス会は、とっても楽しい一日でした。

初めて聴いた民族楽器と自作の楽器を使った独創的な音楽。

色んな音で不思議な世界を感じる事が出来ました。水と手での音に興味津々に見入ってしまいました。

ダーツ(ハンドアーチェリー)もドキドキでした。手作りの打ち台! あれは上手い事作ってるな〜と感心しきり(笑) 十三点という高得点が取れました。

クリスマスプレゼントは、ネットクウオーマーと手作り柿ジャムで

した。ネットクウオーマーは寒い外出にとっても重宝しています。ジャムはとっても美味しいジャムで毎朝ヨーグルトに入れて食べています。

ホテルの食事もお食べやす〜カッとして頂き、皆さんと和気あいあいにお喋りしながらゆ〜くり頂く事が出来、至れり尽くせりのクリスマス会は、日頃頑張っている息子と私へのクリスマスプレゼントト!! でした。楽しかったな〜。

この日の為に色々考えて頂いた役員の方々、お疲れ様でした。お陰で楽しい一日を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。

北葛城郡 高岡 哲也

十二月十四日(土)クリスマス会がありました。

いろいろな楽器があり、オーストラリアのディジュリドゥはお腹に響く音で、他にも大きな音の出る楽器にはびっくりしました。

いろいろなお料理があつて、とてもおいしかったです。そのあとダーツをしました。八点でした。難しかったです。

楽しかったので、また参加したいです。ありがとうございました。



祝 成人

奈良市 安井 勅景さん
天理市 前田 華奈子さん
磯城郡 神野 美優さん
前田 的場 英慈さん
的場 圭さん

編集後記



新しい年を迎え、いかがお過ごしでしょうか。

昨年はチャリティー墨書展、近畿大会と大きな行事が重なる六年に一度の大変忙しい年でしたが、多くの方々に支えていただき無事に終えることができました。

今回も皆様よりお忙しい中、貴重なご意見やご感想をお寄せいただきありがとうございます。ぜひ多くの方がこの「道」を手に取り、父母の会の活動をご理解いただく一助になれば幸いです。

今年も皆様にとって元気で明るい年になりますように。